

# JAFTMA

## JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

令和7年1月31日 発行 第97号

### (一社) 日本釣用品工業会 大村会長年頭所感

謹んで新年のお祝いを申し上げます。旧年中は(一社)日本釣用品工業会(日釣工)の活動に、多大なるご尽力を賜りましたことを深く感謝いたします。本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。また旧年は能登半島地震に始まり、近年にないほど日本各地が多く自然災害に見舞われた1年となりました。被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。



一般社団法人  
日本釣用品工業会  
会長 大村 一仁

## 日本には、世界一の“創る力”がある

国内の釣具市場は、コロナ後の需要収束による流通在庫過多は解消されつつあるものの、依然として踊り場状態が続いています。また、ウクライナ情勢をはじめとした地政学リスクの長期化、各国の金融引き締めによる円安、物価高が続くことが予想され、企業活動は厳しい状況です。日本の釣具輸出で世界第二位の米国においても、トランプ政権による関税の引き上げが懸念されます。

しかし、この逆境においても、世界の釣具市場を牽引するのは多種多様な釣りに感性の領域まで踏み込んで対応してきた日本のメーカーだと私は思います。ユーザー感度が世界一高い日本で、世界一の品質と自由なクリエイティビティをもって真に価値あるモノ、コト、トキを創造する。これまでも先人たちの弛まぬ努力と試行錯誤によって、さまざまな困難を乗り越えてまいりました。人や社会にとって釣りににはどんな価値があるのか。魅力的なストーリーを新たに見出し、拡げ、世界市場をリードしていく力が、私たちにはあると確信しております。

## レスポンスビリティなくして発展はない

日常を離れ、自然に癒されることで明日への活力を取り戻す「釣り」は、これからも人や社会になくてはならないアクティビティです。だからこそ、私どものレスポンスビリティ(責務)を果たすことは極めて重要です。日釣工では「釣りの社会的地位向上」、「釣り人口の健全な拡大」というミッションを掲げ、安心・安全への取り組み、マナー啓発、モラルの向上など、社会貢献を通して、より一層、社会のみならずとの間に親和性と信頼を育てて参ります。

釣りの社会的地位向上のための取り組みの一つ、LOVE BLUE事業は今年で13年目を迎え、参加企業は302社になりました。(24年12月時点)。「水辺をキレイに」「サカナを守ろう」「フィールドを広げよう」の優先3事業を、全国からのご要望を基に、公平性・透明性に配慮しつつ実施しています。

そして今年も、1月17日(金)より3日間、パシフィコ横浜にて「釣りフェス2025 in Yokohama」を開催いたします。過去最多となる228の企業・団体様にご出展いただき、厚く御礼を申し上げます。7釣種に136社が集結する釣種別スタジアム、また新企画として伊勢山皇大神宮様と連携した「釣りフェス神社」を開設。釣りファンの気持ちを高め、新年の釣果を祈ります。

同時に、マナー啓発やライフジャケットの無償点検を実施するなど、釣り人の安心・安全のための取り組みにも尽力して参ります。

## 人と社会に誇れる釣りへ

近年の日釣工は理事メンバーの若返りも進み、世代を超えた多様な視点と価値観をもつことができました。いつまでも釣りが誰もが胸を張って楽しめるアクティビティであるために、そして国民生活を豊かにするみんなのレジャーであるために、新たな視点を加えつつ、着実に事業活動に取り組んで参ります。今年も変わらぬご厚誼を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## CONTENTS

大村会長年頭所感	P.1
釣りフェス2025	P.2
「ロイヤルアングラ賞 2025」受賞者	P.4
LOVE BLUE委員会からのお知らせ	P.5
規格・安全委員会からのお知らせ	P.7
市場調査委員会からのお知らせ	P.7
広報・組織委員会からのお知らせ	P.7
海外戦略プロジェクトからのお知らせ	P.7
ミライ・ミッションプロジェクトからのお知らせ	P.8
第49回理事会開催報告	P.8
会員動向	P.8
事務局だより	P.8

目次

# 釣りフェス

## Fishing Fest.2025 in YOKOHAMA

1月17日（金）～19日（日）の3日間、釣りフェス2025がパシフィコ横浜で開催されました。完全リアル開催が復活して2年目を迎える今回のショーは、過去最多となる228社がブースを構え、主催者と出展社が一丸となって来場者を迎えました。目玉となる釣種別スタジアムには、7釣種（船、へら、ワカサギ、バス、ソルト、トラウト、フライ）に136社が集結し、熱い釣りファンが至福の時間を過ごしました。企画&アトラクションコーナーでは、「釣りの学校」を2教室に拡充、「ノット教室」や「鮎ルアー」、「海釣り施設での釣り方」、「釣りや魚の写真の撮り方」など、釣りの基本から新しい釣り、釣りにまつわる多岐にわたるコンテンツを多くの方に楽しく学んでいただきました。大型プールを使用した「マス釣り体験」では、800名を超える子供たちが魚の引きに歓声をあげました。新企画としては、横浜で由緒ある伊勢山皇大神宮様に全面協力をいただき「釣りフェス神社」を開設。「釣りフェスオリジナル絵馬」を頒布し、一年の釣行の安全や釣果を祈願しました。釣りファンにとって「一年の計は、釣りフェスにあり」が定着していくものと期待しています。また、昨年に続き「にぎわいマルシェ」や「釣りめしスタジアム」など、初心者からファミリーまで楽しめるコーナーや大型キャストイングエリアを使用した有名プロアングラーによるデモンストレーション、キャストイング体験など、来場されたお客様は大いに満足されていました。

3日間の来場者は、インフルエンザ流行の渦中で、人混みを敬遠する状況下にもかかわらず35,708名（昨年比99.6%）を記録しました。

今回は、2026年1月16日（金）～18日（日）パシフィコ横浜での開催となります。



「釣りフェスティバル」から「釣りフェス」へと名称を変更。出展社様、来場者様の満足度向上を目指しました。



「釣種別スタジアム」は、7釣種に136社が集結。熱い釣りファンのハートをくすぐるメーカーが多数出展しました。PRステージにも多くの人が耳を傾けました。



「釣りの学校」を2教室に拡充し、「ノットの結び方」や「鮎ルアー講座」、「海釣り施設の釣り方」「写真の撮り方」など、幅広いコンテンツを展開しました。横浜市とのタイアップ企画「次世代育成事業」では、横浜市在住の小中学生が「海辺の環境」についての学習を行いました。



大型プールを使用した「マス釣り体験」コーナー。800名を超える子供たちが、生きた魚の引きを体験し、釣り楽しさを知る機会を創出しました。



新企画「釣リフェス神社」を開設。横浜市の由緒ある伊勢山皇大神宮様の全面協力を得て、「釣リフェスオリジナル絵馬」を頒布し、一年の安全釣行や釣果祈願を行いました。「一年の計は釣リフェスにあり」を定着させてまいります。



日釣工のレスポンスビリティPR施策として、「マナー啓発」のテーマコーナーを設置。「てはじめにマナー」として釣りを楽しむ人が守るべきマナーを訴求しました。また、子供たちに向けたライフジャケット着用体験コーナーも展開しました。



JAF実行委員のメンバーが、子供たちのアテンドや企画&アトラクションコーナーのサポート、館内の見回り等の業務を行い、代理店とともにショーを運営しました。



2年目を迎えた「にぎわいマルシェ」は、多くのお客様で賑わいました。深海魚へのタッチコーナーやイラスト、木工・革製品などマルシェらしい雰囲気を醸し出していました。

## 「ロイヤルアングラ賞 2025」受賞者

(一社)日本釣用品工業会では、2008年度から経済・文化・芸能・スポーツ等の各界でご活躍されている方々で、釣りに対して造詣が深く、趣味として愛好されている方々や、釣り及び釣り文化の発展に寄与されている方々の中から毎年選出させていただき、感謝の気持ちを込めて「ロイヤルアングラ賞」として表彰させていただいております。

2025年は、ANAホールディングス株式会社 代表取締役社長「芝田浩二」氏を選出し、表彰させていただきます。

### 芝田浩二氏 プロフィール

1957年生まれ。鹿児島県奄美・加計呂麻島出身。82年東京外国語大学外国語学部を卒業し、全日本空輸(ANA)に入社。英語や中国語が堪能で海外畑を歩み、アライアンス室長やロンドン支店長などを歴任し、22年よりANAホールディングス代表取締役社長に就任。海外赴任中や出張先でも、仕事の合間を縫って釣りに興ずるほどの釣り好き。



### 釣りを始めたきっかけ、釣りに関わるエピソード

生まれ育った加計呂麻島で、ゲームもない時代の小学生の放課後の遊びは釣りでした。学校が終わるとすぐに、竹竿を持って海に行っていました。「自然」と、「釣り」が生活の一部でした。竹竿と糸だけの釣りから始まった釣りは、もう少し遠くまで糸が届けば良い魚が釣れるはずとの思いを持ち続けて、道具はリール竿に、陸釣りから船釣りに変わる様に、少しずつ良い道具、良い仕掛けを探求し続けて、今に至っています。

一番印象に残っているエピソードは、2003年の八丈島で先輩の釣ったムロアジを餌に、18kgのカンパチを手巻きで釣ったのがとても楽しくて、現在に至る大物釣りに目覚めました。



写真：八丈島



写真：パラオ

### 好きな釣り

好きな釣りは、釣り場をイメージしながら自分で創意工夫してつくった仕掛けで挑む「大物釣り」です。国内では北は利尻島から、南は伊良部島、海外もパラオをはじめとした様々な釣り場でマグロやGT(ロウニンアジ)などを狙っています。

### 釣りの魅力は

国内外に様々な釣り方があり、地元の人と背景を含めて語り合うことで、多くのことを知る事ができます。中でも、日本は湖、川、海といった様々なフィールド、それぞれに応じた道具が無数にある世界に誇れる釣り文化を持っています。

素人や玄人に関係なく、釣りを通じた新たな出会い、前夜祭(?)や反省会で語る楽しみは、釣りだけに限らない新たな世界が広がる大きな魅力。また、自然と一体となって一生懸命に釣りに興じる事で、エネルギーをチャージし、仕事の活力になっています。

## LOVE BLUE 委員会からのお知らせ

### 釣りフェス2025 in Yokohama

2025年1月17日（金）～19日（日）の3日間開催されました、釣りフェス2025では、釣り人の皆様へ感謝を伝え、マナーの普及啓発の展示を行いました。



### LOVE BLUE プロダイバーによる水中クリーンアップ活動

プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、（10月から12月）では1県で23日間実施（2024年度累計：1道10県97日実施）。

2024年度も社会情勢などを見極めながら、引き続き、安全作業を最優先に、ご関係の皆様と連携しながら実施して参ります。

#### 10月～12月までの実績

期 間	実施日数	実施場所
10/7～10/11	5日間	滋賀県野洲市 菖蒲漁港
10/13～10/17	5日間	滋賀県近江八幡市 沖之島漁港
10/19～10/23	5日間	滋賀県近江八幡市 切通し舟溜
10/26～10/28	3日間	滋賀県草津市 北山田漁港
10/31～11/4	5日間	滋賀県高島市 大溝漁港



滋賀県野洲市菖蒲漁港

## 水産庁後援 つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業 内水面釣り場拡大事業(ワカサギ)

水産庁後援 内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）は本年度は愛知県の三河湖漁業協同組合を採択致しました。

応募要領は水産庁から各都道府県内水面担当部局、全国内水面漁業協同組合連合会から各都道府県内水面漁業協同組合連合会、さらに国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所から各都道府県水産試験場へ配布・周知されています。



## 地球環境基金 企業協働プロジェクト LOVE BLUE助成

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金と連携したLOVE BLUE助成では、本事業で採択された水辺の環境保全を目的に活動する9団体（2015年度助成開始以来累計43団体）が、各地で活発に活動されています。その中で、（一社）隠岐ジオパークツアー・（一社）Mfisea・NPOくすの木自然館・砂川レイクサイドの会の皆様に1/17（金）～19（日）の3日間開催されました、釣りフェス2025にて活動報告を行って頂きました。各団体からは「LOVE BLUE助成を受けた事で、活動の幅が広がりました。」や「本日来場されている皆様のお陰で活動が出来ます。」と温かいお言葉を頂きました。



（一社）隠岐ジオパークツアー



（一社）Mfisea



NPOくすの木自然館



砂川レイクサイドの会

## 規格・安全委員会からのお知らせ

### ライフジャケット安全・啓発ワーキンググループ

規格・安全委員会LJWG（友繁淳史リーダー）では、ライフジャケット着用の啓蒙から点検の重要性を伝えるにあたり、1/17（金）～19（日）の3日間で開催された釣りフェス2025にて、ライフジャケットの関係団体で合同ブース出展や膨脹式ライフジャケットの無償点検を行い着用の啓蒙や点検の重要性を伝える活動を行って参りました。引続き、普及啓発に努めて参ります。



## 市場調査委員会からのお知らせ

市場調査委員会（岡田信義委員長）では、去る11月25、26日（2日間）に第38回市場調査委員会を開催し、報告書掲載数値をまとめました。「第28回釣用品の国内需要動向調査報告書」は、2月1日に発刊いたしますので、業界動向の把握等にご活用ください。

アンケート調査にご協力いただきました会員企業様には厚く御礼を申し上げます。

## 広報・組織委員会からのお知らせ

### 組織強化WG

#### ～会員向け初回無料法律相談の実施～

会員の皆様へ、初回無料にて法律相談をご利用頂けるサービスのご提供を行っております。初回無料法律相談の詳細は、別添資料をご覧ください。

## 海外戦略プロジェクトからのお知らせ

### 海外ビジネス情報ご登録のお願い

海外戦略プロジェクト（高階義尚リーダー）では、会員の皆様に、釣用品の海外ビジネス情報をお知らせする当工業会会員専用ページを開設しております。専用ホームページを閲覧するためには、当工業会ホームページ 海外戦略プロジェクト（下記URLもしくはQRコード）からご登録をお願い申し上げます。

<https://www.jaftma.or.jp/service/others/>

（※これまでご登録いただいていた皆様の改めてのご登録は不要です。）

お申込み後、3営業日以内に事務局よりURL及びアクセス用ID・パスワードをお送りいたします。



QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

## ミライ・ミッションプロジェクトからのお知らせ

ミライ・ミッションプロジェクト（小野俊郎リーダー）では、去る12月11日に第1回目のミーティングが開催され、プロジェクトの趣旨や釣り業界の諸課題、日釣工の役割や歴史等が話し合われメンバー内で共有されました。次回は、4月の開催を予定しています。

## 第49回理事会開催報告

去る令和6年11月28日（木）にリアル開催（会場：ホテル阪急レスパイア大阪）にて、第49回理事会が開催されましたので概要を報告いたします。

### 第1号議案 委員会活動報告および協議

- (1) JAF実行委員会
- (2) LOVE BLUE委員会
- (3) 規格・安全委員会
- (4) 市場調査委員会
- (5) 広報組織委員会
  - ① 広報WG
  - ② 組織WG

### 第2号議案 プロジェクト活動報告および協議

- (1) ミライ・ミッションプロジェクト
- (2) 海外戦略プロジェクト

### 第3号議案 令和6年度中間決算監査報告に関する件

フィッシング会館 緊急修繕と次期修繕計画に関する件

### 第4号議案 会員代表者変更及び入・退会会員に関する件

### 第5号議案 （一社）日本釣用品工業会 後援名義使用許諾申請に関する件

### 第6号議案 その他報告承認事項に関する件

- (1) 令和7年度（2025年度）会議開催日程（案）に関する件
- (2) 懇親会ご案内、その他

全ての議案が承認されました。詳細は議事録にてご確認をお願いします。

## 会員動向

〈会員代表者変更〉

ピュア・フィッシング・ジャパン株式会社

新 会員代表者 代表取締役 石川 雅敬 氏

前 会員代表者 代表取締役 須藤 武彦 氏



## 事務局だより

- ◆本年もどうぞよろしくお願い致します。事務局一同、当工業会の各事業の推進と活性化を図ってまいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。
- ◆三木謡子さんが1月16日より、当工業会に入職いたしました。何卒よろしくお願いいたします。

**JAFTMA**  
JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

一般社団法人  
**日本釣用品工業会**

〒104-0032東京都中央区八丁堀2-22-8日本フィッシング会館5F

TEL 03 (3555) 0101 (代表) FAX 03 (5542) 2929 <https://www.jaftma.or.jp/>

